

赤穂城 赤穂市上仮屋

正保2年(1645)に常陸国笠間から入封した浅野長直が、近藤三郎左衛門正純に築城設計を命じ慶安元年(1648)より13年以上に亘る歳月を費やし寛文元年(1661)に完成した。

城郭の縄張りは近藤正純の指導のもと甲州流軍学によるもので、一部、二之丸枡形虎口付近は山鹿素行が設計変更したと伝えられている。本丸と二之丸は輪郭式、二之丸と三之丸の関係は梯郭式になっており、近世城郭史上非常に珍しい変形輪郭式の海岸平城とされている。三代続いた浅野家だが元禄14年(1701)3月長矩は江戸城において刃傷事件をおこし即日切腹、浅野家は断絶となり同年4月には赤穂城開城、その後は永井家、次いで森家の居城となった。明治の廃藩置県後、赤穂城は払い下げられ屋敷地は民有地となった。しかし城郭復興の気運が高まり、大正元年(1912)には三之丸に大石神社が建立、大正14年(1925)には二之丸に山鹿素行銅像が建立されるなどしました。(説明版、パンフ)



大手門



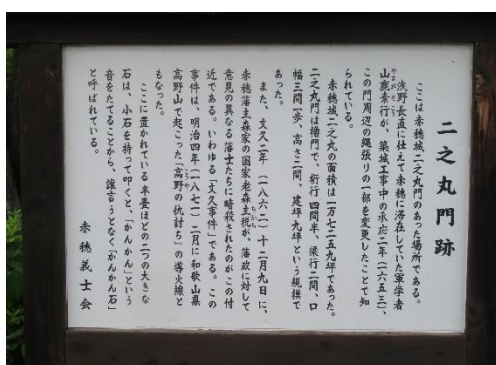
枡形門



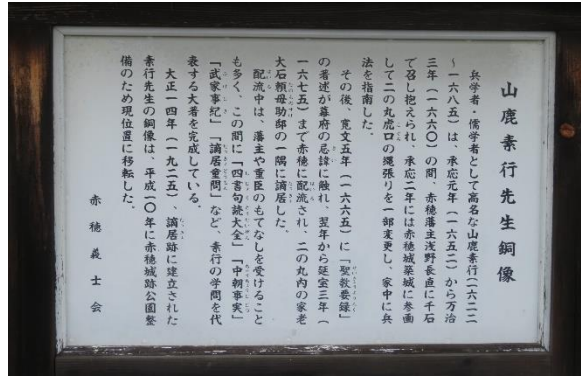
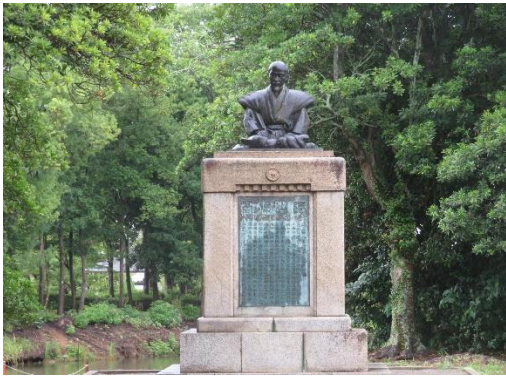
塀の向こうに大石神社



大石邸長屋跡地でお城に隣地していて敷地は広い



二の丸門の跡と説明版



山鹿素行の銅像と説明版



本丸門



本丸には坪庭池泉と大池泉がある



天守台と天守からの眺め



大石神社の参道



本殿

